

2018 いきいきシニア初春のつどい

舞の海秀平さん講演会

一度きりの人生、好きなことに挑戦 憧れの相撲界で多くを学ぶ

元力士で、現在は大相撲解説者やタレントとして活動する舞の海秀平さんが1月に来仙し、「2018いきいきシニア初春のつどい」(主催/宮城県社会福祉協議会・いきいきSUNクラブ)で講演。「小よく大を制す」と題し、入門のきっかけや現役時代のエピソードなどを穏やかな口調で語った。相撲ファンでもある東北放送の守屋周アナウンサーが司会を務め、講演の最後には舞の海さんと、何かと注目を集めている今の角界についてトークを繰り広げた。

(7面に関連記事)



現役時代を振り返り、師匠の思い出を語る舞の海さん

頭にシリコーン

なぜ私が大相撲界に入ろうと思ったか。大学を卒業する2カ月前、相撲部の後輩が突然亡くなり、昼寝中に心臓が止まっていました。まだ20歳。元気で、毎日死と隣り合わせ。たった一度の人生、本当にやりたいことに挑戦しようと思いました。それが大相撲です。

相撲部の監督には、私の身長では力士になるのは厳しいと言われました。当時、力士になるには身長が173センチ必要でしたが、私は169センチ。そこで出羽海親方の元佐田の山を頼りました。

日本相撲協会の力士になるには新弟子検査に合格しなければいけません。検査当日、私はびんにつけ油をおにぎりのように握って頭に乗せ、髪の毛で覆い部屋を出ました。

ところがその日は気温が急上昇し、身長測定の際には油が溶けてしまいました。測定は協会の親方が担当し、身長が3センチ4センチ足りなくても合格させる方もいれば、1センチでも足りないと言われ、合格させない方もいます。この日は運悪く、厳しいことで有名な柏戸さんと、私は不合格を言い渡されました。

次の検査で何とかしなければと考えていたら、美容外科で頭にシリコーンを入れることを勧められました。不安でしたが、頭の皮を剥がしてビニールのようなゴム袋を入れ、専用液を注入する手術を受けました。その夜から

激痛、めまい、吐き気。髪の毛まで抜けました。やっと173センチになり、2度目の新弟子検査会場に到着。この日、身長測定を担当したのは北の湖親方です。

私は頭にシリコーンを入れたことを誰にも言っていないと誓ったが、北の湖は「痛い、もう少しの辛抱だから頑張れ」と言い、合格させてくれました。

晴れて日本相撲協会の力士になり、思い出に残っているのは九州場所の曙戦です。2度目の技能賞を頂きました。後から、私を強く推薦してくれたのが柏戸親方だと知り、私に新弟子検査で落とされた恨みもあり、私はそれまで柏戸が嫌いでしたが、これをきっかけに好きになりました。

師匠の言動から学ぶ

入門直後の話に戻ります。根回ししてくれなかった理由を佐田の山に尋ねると、「この世界でやるには体が小さい。教員採用試験に合格したのだから、教員になった方がお前のためになると思った。やる気があれば、落ちてても



東北放送の守屋周アナウンサーとの相撲トークも繰り広げられた



観客に身ぶり手ぶりを交え話し掛ける

戻ってくると思った」と言うのです。私の覚悟を試されたのです。

佐田の山には日頃からいろいろなことを言われました。勝つても威張るな、負けてもひがむな。勝った力士は相手を敬つ、負けた力士はもう一度鍛え直す。しっかり礼を持って。これは相撲が武士道精神を取り入れているからです。

お金に困ったことがあり、佐田の山に借りたことがありますが、給料が入るとすぐ返そうとしたら、佐田の山は「お前に貸した覚えはない。そんなことはいいから相撲を頑張れ」と忘れたふりをして

くれたのです。人の心を動かす、なんて粋な方なのだろう。師匠のため、部屋の名誉のためにもっと努力しようと思いが高まりました。

佐田の山は一緒にお酒を飲むと面白いことを言います。印象に残っているのは「学者は頭を痛めて努力している、サラリーマンは心を痛めて努力している。力士は体を痛めて努力しなさい」という言葉。どの世界にいても苦しいのです。ただ「強くなれ、稽古しろ、謙虚さを大事にしなさい」と言うのではなく、いろいろな表現を交え、強さや人としての謙虚さを伝えてくれました。

残念ながら昨年、佐田の山は亡くなりましたが、精神的なことを言う方で、相撲の取り方はあまり逆に教えてくれない方でした。佐田の山が「お前の好きなようにやれ」と言ってくれたおかげで、私は自由な発想で考え、取り組みました。感謝してもしきれない、大きな存在です。



講演後はいきいきSUNクラブ会員から花束贈呈